

「会えない時間は会いたい時間」

久仁京介

明けましておめでとうございます。

去年は新潟、東北、いや全国各地で大雪が降って、毎日のように厳しい雪情報が聞かれました。我々の高校卒業した後の昭和38年豪雪を思い出します。

振り返ると東京から里帰りの鶴木君が清水トンネルを越えてから、列車が動けなくなったこと聴いていました。逆に新潟から白根君が東京に来て、そのお正月を涌井君とともに久仁の乗っていたオンボロ外車で晴天の伊豆半島をドライブしたことなど、思い出しています。鶴木会長との思い出は、良い事も悪い事も長い年月に数多く心に残しています。

昨年12月になって新潟市立工業高等学校の情報が入りました。ご存知と思いますが、我々が卒業した後昭和57年(1982)に白山高校と共に高志高校に統合され、その後は北部コミュニティセンター、後に図書館、地域の運動場として、下町に親しまれた施設となっていた。

昭和56年閉校となった折に「新潟市工之跡」の石碑を建立したとのこと。この後も変遷が続きますので、資料も添付いたします。時が過ぎ時代が動いて様々に大きく変化していることが感じられます。アナログからデジタルへの変化は著しく、もっと興味をもって知りたがっていたら良かったのにと、今さらですが悔やんでいます。

2016年、日本作詩大賞を「独楽」でいただき、これをきっかけに「久仁京介かこむ会」を作っていただいた。

翌年、2017年ほぼ全員の集まりがあったのは、懐かしく振り返ることが出来ます。また妙高高原での集まりも思い出します。その後、1~2年でコロナ騒ぎとなり、我々の年齢という事情を考えると「会えない時間は、会いたい時間」と云うことになります。100歳を生きる時代とも云われますが、何か自信がもてない自分がいます。